

大学 ジャーナル

FREE

vol. 162 7月号

第30巻3号・通巻162号

総合型選抜にも役立つ。大学生になっても読んでほしい

発行所:くらぼん出版 〒531-0071 大阪市北区中津1-14-2
TEL06(6372)5372 FAX06(6372)5374
E-mail KYA01311@nifty.com

大学ジャーナル
UNIVERSITY JOURNAL
ONLINE

<http://univ-journal.jp>

おかげさまで30周年、
本紙は5月1日で30周年を迎えました

公式 LINE から
最新情報を配信中



03

筑波大学 システム情報系
准教授
広野 雄士 先生



物理
かじってみる?

第3弾



AI×物理
量子化学
システム生物学
それでも
数学嫌い?

AIも生物も物質も、 物理が見出す “共通の仕組み”

拡散とトポロジーが映し出す、“生み出す力”と“壊れにくさ”の数学的構造

「情報プラス型」入試って何?

教科『情報』と、
『情報学』の高大連携のために
京都産業大学
情報理工学部・理学部

新課程2年目の2026年度入試は、
情報を個別試験で出題する大学が増加、
このチャンスを見逃すな!

05

トピックスⅡ

超少子社会へ向けて 大学連携が加速

私立大学の統廃合時代が幕を開けるか?
伝統の総合大学と先進の大学が
歴史的な戦略的連携協定を締結!



近畿大学

iU 情報経営イノベーション専門職大学

10 11

探究の現場から 04

連載 06

大学ジャーナルオンライン 8

トピックスI

慶應義塾大学 伊藤公平塾長が重任。 2期目に臨んで さらなる改革を目指す。



5月27日、慶應義塾大学の伊藤公平塾長(59)が、同日をもって任期満了を迎えた塾長職に重任した。28日に行われた記者会見で、伊藤塾長は、大学の今後の方針として国際的な教育交流の強化を掲げた。ハーバード大学の留学生受け入れ資格の停止措置についても言及し、国と対峙するハーバード大学の姿勢を支持し、同大学からの学生の受け入れについては、要請があれば交換留学生として受け入れる方針を表明した。さらに、留学している学生にはこの混乱から学んでほしい。若い頃に経験した大学のリアルな実態が今後の学びや経験にとって重要な糧となるとも話した。

【1期目のインタビューは、右のQRコードからお読みいただけます】



2026年度入試へ向けて

新課程2年目、受験生の 選択肢はますます増える。

少子化の急激な進行による将来の受験人口の激減に備え、大学を募集停止にする法人が出始める一方、国が後押しする理工農系、データサイエンス系を中心に、社会のニーズに合わせた学部・学科の新増設や、既存学部・学科からの転換、その再編をはかる動きも目立つ。以下にそんな国立大学、主要私立大学の事例を一部紹介する。

来春も新しい学部 (学環: “学部等連携課程実施基本組織” 含む) ・学科がたくさんデキル！

大学	学部	学科	定員
立教	環境	環境	204
東京理科	創域情報理	情報理工	360
		科学コミュニケーション	80
明治	政治経済	政策	200
中央	基幹理工	数学	70
		物理	70
		応用化学	145
		生命科学	75
	社会理工	都市環境	90
		ビジネスデータサイエンス	115
		人間総合理工	75
	先進理工	精密機械工	145
		電気電子情報通信工	135
		情報工	100
立命館大学	デザイン・アート	デザイン・アート	180
近畿大学	看護	看護	110
京都産業大学	アントレプレナー学環		30
	文化	文化構想	170
		文化観光	100
関西大学	システム理工	グリーンエレクトロニクス工	62
甲南大学	理工	宇宙理学・量子物理工	45
		物質化学	45
		環境・エネルギー工	40

※6月末時点で、文部科学省からの認可がまだ下りていない学部・学科も含まれています。

大学	学部	学科	定員
熊本	共創学環	—	80
佐賀	コスメティックサイエンス学環	—	30
旭川市立大学	地域創造	地域創造	100
長野大学	共創情報科	—	90
福井県立大学	地域政策	地域イノベーション	70
県立広島大学	地域創生	情報	40

2024-2026年度 開設の新しい学部・学科分野別構成(3年間累計)



分野別内訳	
情報・データサイエンス	18件 (22.0%)
医療・保健	16件 (19.5%)
教育・心理・福祉	13件 (15.9%)
国際・文化	11件 (13.4%)
工学	9件 (11.0%)
経済・経営・政策	7件 (8.5%)
環境・グリーン技術	5件 (6.1%)
基礎科学	2件 (2.4%)
芸術・デザイン	1件 (1.2%)

最大のトレンドは「情報・データサイエンス」

全体の22%を占め、トレンドが持続的であることを確定的に示しています。DX(デジタルトランスフォーメーション)を担う人材育成が、大学の最優先課題であることがわかります。

社会を支える「医療・保健」の安定した需要

「情報」分野に匹敵する20%の規模を維持。高齢化や健康志向を背景に、チーム医療を担う専門職の育成が急務であることがうかがえます。

見逃せない「教育・心理・福祉」という大きな柱

3年間累計では16%と高い割合を占めます。技術革新が進む中でも、人の心や成長、共生社会といった根源的なテーマが、変わらず重要視されていることを物語っています。

MGE

MOMOYAMA
GAKUIN UNIVERSITY
FACULTY OF ENGINEERING

2026.04 工学部^{*} START

(開校予定 | 設置認可申請中)

機械システム工学専攻 / 電気電子システム工学専攻 / 都市デザイン工学専攻

工学部Webサイト

工学部^{*}も対象！

OPEN CAMPUS 2025

オープンキャンパス

和泉キャンパス、大阪・あべのキャンパス
同日開催

7/20(日)
8/3(日)
8/24(日)

オープンキャンパス
Webサイト

桃山学院大学 St. Andrew's University

【和泉キャンパス】
■工学部 ■経済学部 ■経営学部 ■社会学部(社会学科/ソーシャルデザイン学科)
■法学部 ■国際教養学部 ■人間教育学部

【大阪・あべのキャンパス】
■ビジネスデザイン学部

※2026年4月開設予定(設置認可申請中)学部・学科の概要等は予定であり、今後変更になる場合があります。

つくる の、はじまり、はじまり。

特集 物理かじってみる？ 第3弾

犬と消しゴムはどう違うんだろう



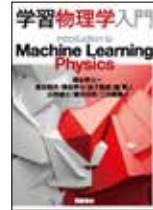
生物の恒常性、物質の相転移、そしてAIによる画像生成——一見まったく異なる現象の背後に、共通する数理構造が潜んでいるとしたらどうだろうか。そうした問いを起点に、物理・生物・情報といった複雑な領域に横断的に取り組んでいるのが、筑波大学の広野雄士先生だ。原子核物理を出発点としながらも、機械学習やシステム生物学に、トポロジー的視点を取り入れ、今では“学習物理”という枠組みを掲げて研究を続けている。最新の研究では、AI画像生成で注目される拡散モデルを、非平衡物理の立場から再構成するなど、実装と理論の両面から新たな視点を切り拓いている。



筑波大学 システム情報系
准教授
広野 雄士 先生

Profile

東京大学大学院理学研究科博士課程修了。博士(理学)。専門は学習物理、統計物理、生物物理、機械学習とその応用。原子核物理からスタートし、機械学習やシステム生物学、トポロジー的思考を導入した複雑系の解析まで、学際的な領域に幅広く取り組む。筑波大学附属高等学校出身。



AIも生物も物質も、物理が見出す“共通の仕組み”

拡散とトポロジーが映し出す、“生み出す力”と“壊れにくさ”の数学的構造

身近な現象とつながる拡散モデル

拡散モデルとは、AIが画像を生成するときに使われる方法のひとつだ。最初は、まるでテレビの砂嵐のようなノイズだらけの画像しかないところから、少しずつ意味のある絵——たとえば猫の写真や風景画——を浮かび上がらせていく技術である。

このしくみは、たとえばコップの水に一滴のインクを垂らしたときを想像するとわかりやすい。インクは水の中にじわじわと広がっていき、やがて全体がうっすら染まる。拡散モデルでは、これと逆のこと——つまり、インクが広がる前の「元の形」を再現するような作業をAIが行っている。

この“逆再生”のような仕組みの背景には、物理学で研究されてきた拡散現象の数学的な構造がある。たとえば、熱が高温から低温へと伝わっていく過程のように、何かが広がっていく動きを記述する数理的な枠組みが、データにノイズを加えていく過程に活用されている。そして画像を生成する際には、その過程を逆向きにたどることで、秩序ある構造が少しずつ立ち上がってくる。ここに、物理学とAIのつながりが見えてくる。

また、モデルの中で扱われる「ノイズ」は、ある意味で自然界の“揺らぎ”や“不確かさ”に対応しており、それをうまく扱うことで、AIは柔軟で多様な画像を生み出すことができる。

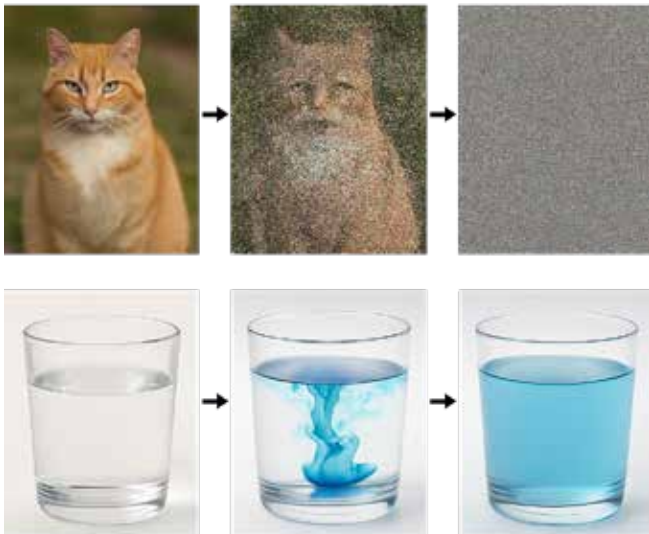
つまり、AIの最先端技術である拡散モデルの中には、古くから物理学が取り組んできた自然現象の数理構造が、そのまま生きているというわけだ。

ロバストな仕組みの背後にある「つながり」の構造

人の身体は、気温が少し変わっても体温を一定に保ち、血糖値も安定させる。こうした「ちょっとした変化に強い」性質は“ロバスト性”と呼ばれ、生物が安定して生きるために欠かせない。

広野先生は、生体内で起きる複雑な化学反応のつながりを「グラフ」として捉え、分析している。ここでいうグラフとは、点と線でできたネットワークのようなもので、各点が分子や反応を、線がそれらの関係を表す。

驚くべきことに、ある特定の“つながり方”をしているグラフは、外界の変化や、そこからのノイズに対して非常に頑丈にふるまうことがわかってきた。こうしたロバ



スト性の背後には、「トポロジー」と呼ばれる“つながりの形”に着目する数学の考え方が関わっている。

似たような考え方は、物質の世界にも現れる。たとえば「トポロジカル絶縁体」と呼ばれる特殊な物質では、内部では電気を通さないのに、表面では少しくらいの傷や乱れがあっても電気が流れる性質が保たれるという不思議な特徴がある。このような“壊れにくさ”は、物質の状態が持つトポロジカル不変量と呼ばれる量によって守られている。つまり、見た目の構造ではなく、状態の“つながり方”に関わる抽象的な特徴が、物理的な性質を左右しているのである。

遠回りにも見える歩みの中で

大学に入ったころ、広野先生は「生きているものと、そうでないものでは何が違うのか」という問いに関心を持っていた。たとえば、犬と消しゴム。どちらが生きているかは一目瞭然だが、その違いがどこから来るのかを考え始めると、意外と明確には説明できない。そんな疑問から、生物とは何かを知りたいと思うようになり、生物学に強く惹かれていった。

しかし、生物学を深めるにつれ、個別の知識の積み重ねが中心となることに違和感を覚え、「この問いには物理学のような、もう少し抽象的な視点が必要なのでは」と考えるようになる。そして学部3年次に物理学科へと進んだ。

ところが、そこで一気に視野が開けたわけではなかった。むしろその後は、授業に出ずにアルバイトやインターンに明け暮れたり、しばらく大学を離れて働いていた時期もある。

研究を始めてからも、ひとつの道をまっ

すぐ進んできたというよりは、そのときの流れの中でいろいろなテーマに取り組んできた。しかしその遠回りの中で、ときに思いがけず、それまで別々だったものがつながる瞬間もあったという。

物理・生物・情報といった分野を横断する現在の研究スタイルにも、そうした遠回りの経験が影響し

ているのかもしれない。

高校生へのメッセージ

AIが急速に発展し、「とりあえず動かししてみる」ことは誰にでもできる時代になった。こうした流れに対して、「人間の役割がなくなってしまうのでは」と不安を感じる人もいるかもしれない。

しかし広野先生は、人間の脳とコンピュータは仕組みそのものが異なるため、同じ情報処理をしているように見えても、できることが完全に重なることはないと考えている。

「AIはたしかに強力な道具ですが、それだけで何でも代替できるものではありません。むしろ、これからはAIが汎用技術として社会のあらゆる分野に入り込んでいく。その中で、何を扱うかという専門性を持っていることが、ますます重要になると思います」。

どんなに優れたツールがあっても、それをどう使い、何を生み出すかを決めるのは人間だ。AIが広がる時代だからこそ、人

間側にある知識や判断の力が、アウトプットの質を左右する。

ChatGPTのような生成系AIが、学びのパートナーとして活用できるようになってきている。難しい論文を要約してもらったり、内容を噛み砕いて説明してもらったりといった具合に、学びの体験をより深く、リッチなものにできる。

実際、広野先生が共著の一人に名を連ねた『学習物理学入門』という書籍では、書籍の内容をあらかじめ学習したChatGPTと対話しながら、読者自身が学びを深めていけるような工夫も施されている。

「最近は無駄なくタイパ重視で生きようとする人も多いように思いますが、人生ってもうちょっと長いスパンで見た方がいいんじゃないかと思うんです」と広野先生。

「僕はこれまで、そのときそのときで面白そうだったことに取り組んできただけで、正直あまり計画的ではなかった。でも、研究者としての人生を30年くらいのスパンで見れば、そうやって関わってきた様々なトピックが、あとになって意外なところでつながってきたり、別の分野に応用できたりする場面が出てくるんですよね」。

無駄を避けて最短距離を行く——そんな生き方がよしとされがちな時代かもしれない。けれども、短期的には非効率に見える選択が、長期的には思わぬ強みにつながることもある。

そして今は、AIをうまく味方につけることで、そうした探究の過程により多くの試行や学びを重ねることができる時代になりつつある。AIは人間の力を奪うものではなく、選択肢や視野を広げてくれる存在だ。

AIとともに考え、学びながら成長していく——そんな時代が、すでに始まっている。

トポロジーとは？

ドーナツとマグカップは、一見するとまったく異なる形に見える。しかし、トポロジーの観点からは、この二つは同じ形として扱われる。どちらも「穴がひとつある」とい



ドーナツとマグカップは、トポロジー的には「同じ形」。

う特徴を共有していて、滑らかに変形できる範囲であれば、相互に移り変わることが可能だからだ。

トポロジーとは、物体のサイズや角度、素材などには依存せず、連続的な変形によって保たれる“つながりの構造”に注目す

る数学の一分野。角を丸めたり、表面を伸縮させたりしても変わらない、図形の本質的な性質を捉えることを目的とする。

このような視点は、幾

何学的な図形の分類にとどまらず、電気回路、分子構造、データ構造の解析、さらには物理学や生物学のネットワーク構造の理解にも応用されている。トポロジーは、表面的な違いに惑わされず、内在する構造の共通性を見抜く手法を提供する。

高等学校「探究」の現場から その8

高校「探究」の課題、どう乗り越えるか？
秋田県高校生探究発表会を通じて得た成果から

今号では、一昨年・昨年度と2年連続で開催した「秋田県高校生探究発表会（以下、探究発表会）」について、企画内容に加えて、企画意図や成果・課題を紹介します。「課題研究」に代表される高校の探究活動について知ってもらう一助となればと思います。

探究発表会の開催背景

「総合的な探究の時間」のスタートに伴い、文系や理系を問わず、全ての生徒は探究的な活動を通じた成果や学びを3年間蓄積することになりました。

ひと昔前までは、実業科や科学部、理系のクラスなどで実施される研究活動を「課題研究」と呼び、「探究活動」は理系がメインのイメージを持たれていたと思います。これを、全生徒を対象に実施するというのは大きな変化であったと言えます。スーパーサイエンスハイスクールに指定されている筆者の所属校でも（第Ⅰ期：平成25～29年度、第Ⅱ期：平成30～令和4年度、第Ⅲ期：令和5年度～）、第Ⅰ期では理系と躍進探究部（いわゆる科学部）に限定されていた課題研究を、第Ⅱ期には全生徒を対象に探究活動として実施するようになりました。

これらの変化から数年が経過し、以下の課題が浮き彫りになってきました。

- ・文系の探究活動の成果発表の場が不十分
- ・文系の探究活動の指導ノウハウが不足
- ・文理問わず探究活動の指導経験について、情報共有の場が不足

以下、この3点についてさらに詳しく分析してみます。

【文系の探究活動の
成果発表の場が不十分】

秋田県では、複数の高校がエントリーする自然科学系の成果発表の場は、学科やSSHの指定の有無などにもよりますが、年間に3～4種類存在します。そのため、学校としては、例えば、「今年度は、この3件は発表会Aで、こちらの2件は発表会Bで、あの4件は発表会Cで発表させよう」など、より多くの生徒に発表を経験させることができます。一方で、文系の探究活動の発表機会は、学校内の発表会が全国規模の大会に限定され、より身近な秋田県内での発表の機会は皆無でした。すなわち、文系の探究活動は、学校内という閉じられた環境で実施される

ケースがほとんどであったのが実態と言えます。

文系の探究活動の
指導ノウハウが不足

教科書会社からは「課題研究」や「探究活動」の進め方に関する出版物が発行されていますが、高校の理科教員のほとんどは卒業論文研究や修士論文研究を経験しており、これらの経験をベースとした指導が実践されているという印象を受けます（教科書を使用しないという意味ではありません）。一方で、文系の探究活動の指導に焦点を当てると、指導に当たる教員から「研究経験がない」という声が多く聞かれ、テーマ設定、仮説の導き方、仮説の検証方法に苦慮しているケースが散見されます。筆者は博士号教員派遣事業の一環で、秋田県内の高校に招かれて講演を行う機会がありますが、ここ数年、地域課題の解決をテーマとした「探究活動の進め方」についての依頼が急増しています。この傾向も、文系の探究活動の指導に対する不安の表れとも考えられます。

【文理問わず探究活動の指導経験に
ついて、情報共有の場が不足】

前述した2つの課題については、筆者の経験や、県内の博士号教員との情報交換で得た情報をもとに記述したものです。したがって、探究活動について客観的かつ網羅的に状況を把握した上での分析とは言えないかもしれません。しかし、秋田県に限った話かもしれませんが、これこそが最後の課題として指摘したい部分です。探究活動の指導ノウハウやカリキュラムとしての探究活動のマネジメントなど、教員間・学校間での成果と課題の情報共有が十分とは言えない状況なのです。

このような課題意識を持っていた中、Classi株式会社から、「関西学院大学高等部と開催している『中・高生 探究の集い』」のような発表会を秋田県でも開催できないか？」と打診されました。生徒と指導教員が理系分野に限定せずに

秋田県立秋田中央高等学校
教諭博士（生物資源科学）
東海林 拓郎さん



Profile
秋田県立大学生物資源科学部卒業。秋田県立大学大学院生物資源科学研究科博士課程前期・後期修了 博士(生物資源科学)取得。NPO法人環境あきた県民フォーラム、一般社団法人あきた地球環境会議を経て、2016年より秋田県の博士号教員。2023年より、秋田県立秋田中央高等学校に勤務。専門は、土壌環境学。北海道立札幌月寒高等学校出身。

「探究活動」をテーマに集う場は、上記課題をクリアする一歩となると考え快諾しました。

探究発表会とその成果

この探究発表会は、これまでに2023年度と2024年度の2回、開催しています。各年度とも、Classi株式会社と上記の課題意識を共有しつつ、1つひとつクリアできるよう議論を重ねて企画を進めました。実施概要は以下の通りです。

	2023年度	2024年度
発表分野	不問	
発表形式 (件数)	口頭発表 (7件) ポスター発表 (22件)	ポスター発表 (34件)
主催者と参加者のコミュニケーション	コンテスト形式 ・対象は口頭発表 ・賞金あり	フィードバック形式 ・全発表が対象 ・博士号教員などからコメント ・賞金なし
参加者同士のコミュニケーション	なし	生徒交流会 (生徒主催) 教員交流会
参加者数	127名	156名
参加校数	7校	8校



（2025年度の探究発表会の様子）

発表分野については、一貫して「不問」としました。これは、特に文系分野の発表機会を創出することを意図したためです。2024年度の内訳は、文系分野と理系分野が、それぞれ23件と11件でした。文系の探究活動の成果発表の場として、一定の成果を果たしていると考えます。

主催者と参加者のコミュニケーションについては、コンテスト形式をやめて、「論理展開の妥当性」の視点からフィードバックを行う形式へと転換しました。博士号教員などからのフィードバックには、生徒だけでなく、その探究活動を指導した教員へのメッセージも込められています。参加生徒に行った事後アンケートでは、「他校との交流・フィードバックが刺激になった」という声や、他校の探究活動の質の高さ、また自己成長への言及がみられました。参加者同士のコミュニケーションの場をと、

雑賀恵子の 書評

『となりの史学』という少しヘンテコリンなタイトルに、葉巻を啜ってVサインをするチャール、両手を前に組んでいるヒットラーやスターリン、腰に両手を当ててそっぽ向いてる蒋介石、もう一人、これは松岡洋右（かなあ、違のかなあ）が芝生の上に丸く並んでいるポップな手描きイラスト。真ん中に、本を小脇に抱えたにこやかな女性と、なんだか困って座り込み謝っているような男性。思わず手を取ってしまいたくなる、楽しい表紙だ。

著者は加藤陽子さん。東京大学大学院人文社会系研究科教授で、中高生への集中講義を通して日本近現代史を見つめた名著『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』で広く知られる歴史学者である。表紙だけではなく、本文中にもまんがを描いているのはモリナガ・ヨウさん。早稲田大学で地理歴史学を修め（だから歴史には詳しい）、イラストルポで独自の世界を築いている画家さんだ。もちろん、表紙の真ん中



となりの史学
戦前の日本と世界

加藤 陽子
毎日新聞出版
2025年

の二人である。この二人がタグを組んで、第二次世界大戦に突き進んでいく世界を、内外の第一線の研究者たちが書いた本を紹介しながら読み解いていくのが本書である。もともとは、東京大学出版会のPR誌『UP』に2010年から2018年まで「トナリのシガク」として連載されていたものだ。

『となりの史学』とはどういう意味だろう。直接の意図は、著者専門の日本近代史の隣接領域である西洋史・東洋史・グローバルヒストリーなどの世界史を「羨望しつつ面白がって、世の中の人々にもお知らせする」というものだったらしい。最新の研究を収めた専門書を取

雑賀 恵子

文筆家。京都薬科大学を経て、京都大学文学部卒業、京都大学大学院農学研究科博士課程修了。大阪教育大学附属高等学校天王寺学園出身。著書に『空腹について』（青土社）、『エコ・ログス 存在と食について』（人文書院）、『快楽の効用』（ちくま新書）がある。本誌では、2008年11月発行の79号から、ほぼ毎号、書評を寄稿。

り上げてじっくり読んでいくという連載時の文章を、「日本と中国」「日本とロシア」「日本と英国」「日本とドイツ」と二国間関係を柱にして分類し編み直している。隣接領域というが、もちろん専門領域には概ね国家の枠組みがあるとはいえ、日本史は日本史として、中国史は中国史として孤立している訳ではないのは当然のことである。にもかかわらず、ごく最近まで、高校で習う歴史の授業では、日本史と世界史の二つに教科がくっきり分けられてきた。そして習ったそれらの歴史は、筋が通っていると思うし、それを基点に外国の歴史を眺めたりする。だが、隣りの国には、隣りの国の歴史観があることも忘れてはならない。お互いの歴史の見方を擦り合わせて、客観的に捉える作業が必要だ。「歴史総合」という教科ができたのもそのためだろう。

日本では、自国史を太平洋戦争終結前後を分け目と考え、現代社会を考察する際は1945

年8月15日を起点とするのが一般的だ。しかし中国では、「建設」（近代化）と「統一」（統一国家の形成）を二大目標に掲げた1911年の辛亥革命を起点とするという。専門書を紐解きながらのこうした指摘は、なるほどなるほどである。

イラストの加藤先生はにこやかでありながらも、キリッと鋭く前を見ている。戦争に突き進んでいく世界の中での日本を捉え直すと同時に、本書は、私たちの生きている現代の日本の状況についてもきっちりと炙り出している。

本書は難しいかもしれない。けれども、誠実な学者というものの凄まじさは読むごとに静かに迫ってくる。

たとえば、日本ファーストの妄想じみた歴史観を主張し、積み重ねられた研究を切り捨てるような政治家が何を喋ろうとも、この静かな凄まじさには勝てないだろう。加藤先生が、菅政権によって日本学術会議新会員の任命を拒否された理由が、わかろうというものである。

教科『情報』と、『情報学』の高大連携のために

教科『情報I』を必修とする新課程への完全移行を受け、2025年度入試の大学入学共通テストでは、すべての国公立大学が「情報I」を課すことになった。これと並行して、特に私立大学では、入試の個別試験の一部に「情報」の試験を新たに導入する大学が増えた。「情報プラス型」入試を実施した京都産業大学の情報理工学部・理学部もその一つ。一般選抜において「情報」を個別科目として明確に評価する先駆的な取り組みとして注目を集める^{*}。その導入の意図や経緯、今後の展開について、情報理工学部長の奥田次郎先生に聞いた。

※2025年3月に開催の情報処理学会第87回全国大会(QRコード左下)で紹介されたほか、情報処理学会・学会誌「情報処理」の連載記事“教科「情報」の入学試験問題って?”(QRコード右下)でも取り上げられ、教育的意義と挑戦的な出題のバランスが高く評価されるなど、全国の情報教育関係者からも注目を集めている。



京都産業大学
情報理工学部長
奥田 次郎先生

Profile

1993年東北大学 工学部 資源工学科 地質情報工学 卒業 工学士、1995年同資源工学専攻 地質情報工学 修士課程修了 修士(工学)、1997年同医学系研究科 障害科学専攻 高次機能障害学 博士前期課程修了 修士(障害科学)、2000年同博士課程修了 博士(障害科学)。2002年1月～2004年1月英国University College London Institute of Cognitive Neuroscience Visiting Scientist、2008年4月から京都産業大学 コンピュータ理工学部インテリジェントシステム学科 准教授、2011年から同先端情報学研究科 准教授、2015年から同教授。2012年3月～2015年3月 株式会社国際電気通信基礎技術研究所 脳情報通信総合研究所 動的脳イメージング研究室 客員研究員。2018年から京都産業大学情報理工学部 情報理工学科 教授、2024年から現職。兵庫県立神戸高等学校出身。

今春、京都産業大学 情報理工学部・理学部が 「情報プラス型」入試を導入

新課程2年目の2026年度入試は、 情報を個別試験で出題する大学が増加、 このチャンスを見逃すな！

なぜ「情報」を入試で問うのか？

高校の新学習指導要領で「情報I、II」が導入され、情報教育がプログラミングやデータ活用といった実践的内容に進化した。こうした学びを大学入試でも正當に評価すべきというのが、京都産業大学のスタンスだ。

「情報の力を持った学生を積極的に迎え入れたい。その素養を評価する手段として、入試科目に情報を設ける意義は大きい」と、情報理工学部長で、BMI^{*}など、データサイエンスと脳情報計測・分析を融合させた研究を進める奥田次郎先生は語る。実際、大学での学びにスムーズに接続できるという点でも、情報の試験は入学後のミスマッチ軽減に貢献するはずという。

^{*} Brain-machine Interface

「情報プラス型」入試の 仕組みと出題内容

京都産業大学が2025年度の一般入試に導入した「情報プラス型」は、英語・数学に加えて「情報」を3科目目として選べ

る併願制度。スタンダード2科目型（英数）による判定に加えて、併願オプションとして情報を加えた3科目による判定が行われ、この2回の判定のどちらかで合格すれば良い、受験生にとって嬉しい制度だ。情報理工学部では、英数が各100点のところ情報の配点は200点で、英数にやや不安のある受験生にもチャンスが広がる。

実際の出題例としては、アルゴリズムの出力を読み解く問題や、アルゴリズムを理解してコードを完成させる問題、あるいは統計データを分析して傾向を捉えるものなどがある。これらは単なる暗記ではなく、論理的思考力と課題解決力を評価する内容となっている。

「今の高校生は、情報という教科を通して『課題を見つけ、整理し、データをもとに仮説を立て、検証する』という、これからの時代に求められる重要な力を育てている。その能力を、大学の入り口で正當に評価しない手はない」と奥田先生。丁寧に練られた問題構成で、基礎的な理解から応用的な思考までが段階的に問われる。

初年度の反響と成果

導入初年度の2025年度入試では、情報理工学部に限ると志望者198名のうち約半数の95名が情報試験を選択。38名がこの方式で合格した。英数の得点だけでは届かなかったが、情報の得点で逆転した受験生もあり、入試に新たな突破口を開く制度としても注目される。

「英数では埋もれてしまうかもしれないが、情報で輝く生徒がいる。その芽を入試で見逃さないための制度」と奥田先生。結果的に、入学後の専門教育にスムーズに適合する人材の選抜につながるはずという。

この秋、公募推薦入試にも展開

個別試験での導入で手応えを掴んだ京都産業大学情報理工学部、理学部では、2026年度入学者へ向け、「情報プラス型」を公募推薦入試にも導入する。もちろん英語・数学の2科目判定と情報を加えた3科目判定の2回分の合否判定を受けられる選抜となる。「共通テスト前に情報の学びを活かす機会が増え、情報教育に力を入れる高校にとっても好材料となるのではないか」と奥田先生。

実は、同大学・同学部は、以前から情報に関する選抜では実績がある。AO入試（現総合型選抜）では20年以上前から作品提出型を、2015年度（2016年度入学予定者）からは筆記試験型（情報プラス型へ発展的解消）を導入。作品や試験成績に加えて、情報関連の資格取得やコンテスト参加・受賞等の自主的な活動の成果も評価するなど、入学者の情報能力を見ようという姿勢は一貫している。これは受験生からも、「自分の得意なことを

評価してもらえる」と評価が高かったという。

入学後の教育環境と 社会との接続

京都産業大学では、データ・AI活用に関する科目をすべての学部生向けに開講しているが、大学院では先端情報科学研究科が2024年、文部科学省「令和6年度大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」に採択された。情報技術力を備え新たな価値を創造できる人材育成を目指すもので、IT企業と連携した実践的な演習科目の創設など、情報教育の高度化と社会実装に取り組む。また、デジタルファブ리케이션分野の強化のためにデジタルものづくり工房「ファブスペース」を増強、地域のスタートアップ企業、伝統産業などとも連携する。

これからの情報入試と展望

関西では2026年度、総合大学を筆頭に、情報科目入試を導入する大学の増加が見込まれている。こうした中、京都産業大学は私立総合大学として、情報分野の入試改革をリードする存在を目指したいとする。

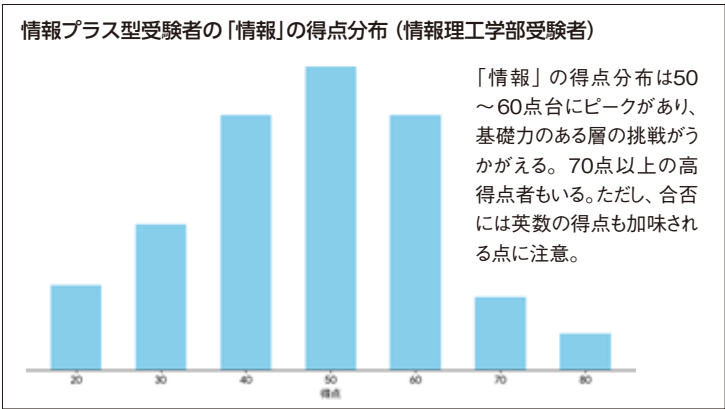
「理学部が理科の試験を入学選抜で課すのと同じように、情報系学部が情報の試験を課すのは当然。情報の試験についてノウハウや意義・考え方を他大学・高校とも共有し、高校と大学の情報教育をつなげていきたい」「情報」に関する日本の大学入試とその教育のスタンダードを作る一助になれば」と奥田先生。京都産業大学情報理工学部からの熱いメッセージが伝わってくる。

2026年度入試へ向けて、「情報」を学ぶことが新たな可能性につながる時代がもう始まっている。

情報理工学部	英語 (100点) 数学 (100点)	+	情報 200点	=	合計 400点
理学部		+	情報 100点	=	合計 300点

試験時間は80分。出題分野は「コンピュータサイエンス基礎」「プログラミング」「データ分析」の3領域。特徴的なのは、京都産業大学独自の入試問題用疑似プログラミング言語を用いたコーディング問題や、表やグラフを読み取って考察するデータ活用問題などで、探究学習との親和性も高い。

※下記サイトに記法説明やプログラム例が掲載されています。



OPEN CAMPUS 2025

7/20^日 | 8/2・3^{土・日} | 9/15^{月・火} | 12/21^日

10:00～(9:15～随時受付)※12月は11:00～ 事前申込制 (当日申込可)

高校生の方はもちろん、保護者の方もご参加いただけます。
イベント詳細および事前申込は京都産業大学の入試情報サイトをご確認ください。

- 経済学部

 - 経済学科
- 経営学部

 - マネジメント学科
- 法学部

 - 法律学科
 - 法政策学科
- 現代社会学部

 - 現代社会学科
 - 健康スポーツ社会学科
- 国際関係学部

 - 国際関係学科
- 外国語学部

 - 英語学科
 - ヨーロッパ言語学科
 - アジア言語学科
- 文化学部

 - 文化構想学科 **NEW**
 - 京都文化学科 **RENEWAL**
 - 文化観光学科 **NEW**
- 理学部

 - 数理科学科
 - 物理科学科
 - 宇宙物理・気象学科
- 情報理工学部

 - 情報理工学科
- 生命科学部

 - 先端生命科学科
 - 産業生命科学科
- アントレプレナーシップ学環 **NEW**

入学センター
京都産業大学

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山
TEL 075-705-1437
E-mail: info-adm@star.kyoto-su.ac.jp

入試情報
サイトは
コチラから



大学ランキングからはわからない大学の實力

第10回

教育ジャーナリスト
小林 哲夫さん

Profile
1960年神奈川県生まれ。教育ジャーナリスト。朝日新聞出版「大学ランキング」編集者(1994年〜)。近著に『日本の「学歴」』（朝日新聞出版 橋本俊詔氏との共著）。

ネットメディア、週刊誌の大学記事にはタイトルを見るだけで減入ってしまうことがある。その最たるものは「Fランク大学」だ。◆「Fラン大は人生積んでいる」は本真か。学歴を超えた「学ぶ意味」を考える」（ダイヤモンドオンライン2025年6月2日）◆「いわゆる「Fラン大学」でも行かないよりは行ったほうがいい…「生涯賃金の推計」でわかる"大卒の決定的違い"」（プレジデントオンライン2024年7月26日）◆「日本に「Fラン大学」は必要なのか…10年後の「大学全入時代」を前に考えるべきこと「教育機関」のバールを脱ぎ捨てた私大」（『週刊現代』2024年10月19日号）◆「なんでアホを押しつけるんだ。ちゃんと人事部門で面倒を見ろよ！」「Fランク大学出身者＝役立たず」とレッテルを貼る経営者の的外れ」（文春オンライン2022年10月11日）◆「奨学金が支える「Fランク大学」の葛藤と不安 1300万円のハンデを負って通う価値はあるか」（東洋経済オンライン 2016年4月26日）

これらの記事は「Fランク」大学を徒に貶めているわけではない。まじめな問題提起型もある。だが、定員割れ、難易度が下位、学生の低学力、中学や高校の補習教育実施などといった、大学のありようの描き方には通底するものがある。そこには「Fランク」大学がネガティブな方向に独り歩きしてしまいかねない芽が潜んでいるため、大学にすれば、F

「Fランク」大学の登場から25年

むき出しのホンネが行き交う大学情報

ランク」というレッテルを貼られることは避けたいところだ。そもそも「Fランク」大学はいつ、だれが作ったのだろうか。きっかけは2000年に週刊誌で報じられた記事だ。こんなタイトル、リードの記事が出ている。「受ければ受かる「Fランク」私大194校も全実名河合塾が格付けしたら、全国4割の大学が該当」（『週刊朝日』2000年6月23日号）2000年、河合塾が入試資料としての難易度表に「Fランク」を付けたのが始まりだった。同誌によれば、Fはフリーパスの頭文字からとったとされる。Fの認定基準は、①実質倍率が2倍以下、②すべての偏差値帯で合格率が65%以上、③合格者の下限偏差値が35以下、の3つがすべて揃っていることである。同誌にFランクと名指しされた学長のコメントが掲載されている。「本学は少人数教育を伝統としており、入学後の教育により、有為な人材として社会に送り出す努力をしているのでそうした点を総合的に見てほしい」 「偏差値に頼る教育の弊害は明らかであり、本学はそれよりも品性や感性の豊かな学生を求めている。学力だけでなく、本学にふ

さわしい人間性により選抜している。良家の子女とはそんな女子なのである。二学科がFランクなのは、本学の本質にかかわりがない。一教育産業の偏差値が話題になることに首をかしげる」（『週刊朝日』2000年6月23日号）。この記事はさらに別のメディアが伝えて広がっていく。こうして「Fランク」大学の登場から四半世紀経ったわけだ。「Fランク」が登場するまで、これに相当する大学はどのように呼ばれていたか。「三流大学」「底辺大学」などが思い浮かぶ。もっとも、こうした言い方は公の場では憚られ、メディアで見出しになることはほとんどなかった。「三流」視するのは蔑みと受け止められ、さすがにまずいという抑制が働いたのである。上から目線で差別的と批判されるのを恐れ、特定の大学を見下すようなホンネは慎むべきという思いからだ。しかし、「Fランク」は大学を語る上で業界用語になりつつあり、こうした抑制、恐れ、慎みを取っ払ってしまった。そしてSNSの普及で誰もが発信できるようになってからは、より一層、顕著になっている。受験、学歴をネタに語るユーチューバーたちが、無邪気に「F

ラン大学」と喧伝する。彼らは受験生たちの偉大なるインフルエンサーとなりうるので、「Fランク」と呼ばれた大学にすれば、辱められたと受け止めてしまう。だが、「Fランク」はその定義があいまいであり、そして、あまりにも無機質な言葉ゆえ、「大学を傷つけられた」「学生募集に影響を及ぼした」などと反論したり、名誉毀損で提訴したりするのはきわめて困難だ。泣き寝入りするしかない。これでいいのだろうか。「Fランク」から派生されたむき出しのホンネによって、大学の現状とかけ離れた情報が伝わってしまう。そのなかには、「幼稚園児」「小学生」、そして「バカ」「アホ」「マヌケ」から、見るに堪えないヘイト的なフレーズまでもある。さまざまな学部や学科を作って工夫したが、学生募集で苦勞している大学教職員がいる。第1、第2志望に受からず、不本意ながら難易度が下位の大学に入学した学生がいる。それでも大学は機能しており、教職員は学生をしっかり教育、指導し、学生はまじめに学んでいる。彼らに対して「Fランク」というレッテルを貼るのは「三流」「底辺」と見下すことと同じだ。そこで学ぶ学生を差別と偏見にさらしてしまい、たいそう傷つけている。それを避けるためにも大学受験用語から「Fランク」はなくしてほしい。塾や予備校、高校、大学、メディアは、どうか「Fランク」を使わないようにしてほしい。どうか愛情をもって大学を見てください。

杜の都の西北から

第10回

「掃除」してますか？

学習指導要領と清掃活動

我が国の小中高等学校等では、児童生徒が日常的に教室等の清掃をする。子供の頃に掃き掃除や雑巾がけを分担して輪番制による清掃活動をした記憶があるだろう。これらの清掃活動は、単なる習慣ではなく正規の教育課程の一部として実施されている。学習指導要領の改訂に向けた検討がはじまったこのタイミングに清掃活動について考えてみたい。教育課程において、清掃活動は主として「特別活動」に位置づけられる。特別活動には、学級活動、児童・生徒会活動、学校行事、小学校的クラブ活動などが含まれる。その中でも清掃活動は学級活動の一環として扱われることが多い。学級活動には、清掃のほか、日直業務、朝の会・帰りの会、集会活動、飼育・栽培などの係活動が含まれ、これらの活動の目的は、児童生徒が望ましい人間関係を形成し、集団の一員として主体的に関わることで、自立し、協働しながら様々な課題に取り組む態度を育むことにある。日本の学校教育は、知育のみならず「知・徳・体」の調和の取れた全人的な発達を重視しているが、その特質を特別活動が象徴していると言える。清掃活動が教育課程の一部であることは明らかだが、その基準である学習指導要領の位置づけは必ずしも明確ではない。現行の小

学校学習指導要領では、学級活動の項目に当番活動の一例として簡単に言及されるのみであり、そのように位置づけられたのは平成20年以降でそれ以前はなかった。また、中高等学校の学習指導要領には清掃活動に関する記載はみられない。にもかかわらず、学校では当たり前のように日々清掃活動が行われている。特別活動関係の指導資料など、現場に近い資料では清掃活動が題材として取り上げられるのは定番になってくる^{※1}。このことから、清掃活動は制度としての学習指導要領よりも前に学校現場に定着していたと考えられる。その可能性については、明治期以来の学校保健関連の法令から示唆を得ることができる。明治期には、学校衛生顧問会議の検討を得て学校医、学校歯科医、身体検査、学校伝染病予防等の法令等が個別に定められてきた。これらの法令等は内容を精選し纏められ、昭和33年に制定された学校保健法の体系に組み込まれた。その中にあったのが、「学校清潔方法」（昭和23年の文部省訓令第2号）。この訓令が学校の清掃の意義や清掃方法を定めたものであった。学校清潔方法は冒頭で、学校環境の清潔維持が児童生徒の健康と学習能率の向上に寄与するとともに、「学校における清掃の指導

（学）東北文化学園大学評議員・大学事務局長、弊誌編集委員
小松 倅厚さん

訓練は、衛生教育の一環として系統的に実施させ、その実践は、学校だけでなくとどまらず生徒児童の家庭にも及ぼし更に社会公衆の衛生思想並びに美的観念の高揚にまで及ぶ」ことをも期待するとしていた。その上で、日常・定期・臨時の清掃手順等が具体的かつ詳細に規定されていた。^{※2}学校清潔方法は、明治30年の文部省訓令第1号により導入され、学校保健法制定までの約半世紀にわたり学校教育に影響を与えてきた。その発展の過程には、衛生に重きをおく医学専門家と、教育的道徳的価値を重視する教育専門家による協議や調整も行われていたと考えられる。前者の視点は学校環境衛生の発展に寄与し、後者の視点は特別活動の内実としての位置づけにつながり、さらに、海外からも関心が示される日本の学校教育の特色確立に寄与してきたのではない。その代表例がエジプト・アラブ共和国における取り組みである。平成27年の首脳間の相互訪問を契機に策定されたEJEP（エジプト・日本パートナーシップ）の枠組みの下、同国に日本型教育の要素を取り入れた教育が導入された。現地ではTOKKATSU(特活)と呼ばれており、JICA（国際協力機構）を通じた国際協力により、エジプト各地にEJS（エジプト日本学校）というモデル校が設置され、これを一般の小中学校へ展開する試みが進んでいる。令和7年現在、EJSは全国で55校に拡大している。TOKKATSUでは、日本の学校の朝

礼、日直、清掃、学級会などの活動が導入されたが、とりわけ清掃活動については、当初、保護者の理解を得るまでに一定のプロセスを要したという。^{※3}特別活動に象徴される教育の特徴は、他国からも関心を寄せられており、これに応える形で平成28年には日本型教育の海外展開事業（EDU-Portニッポン）が始動し、その後も調査研究事業が展開されている。学校清掃を例に概観してきたが、日本の学校で日常的に行われている活動の中には、明治以前から戦前にかけて発展してきた教育活動や、戦後の教育改革期に導入されたユニークな活動が含まれ、これらが特別活動に象徴される日本の学校教育の特色を形成している。時代の要請に応じて教育の見直しが進められる中で、関係者には、次世代に残すべき教育活動を的確に選定することが求められる。

※1 例えば安部恭子他編著 国立教育政策研究所教育課程研究センター指導資料「小学校特別活動」2018年学級活動(3)の題材は清掃である。このように清掃活動を取り上げる事例は多い。

※2 日常の清掃を例にとると、同訓令は「校舎、寄宿舎等は、毎日窓を開放して、(略)まず水をまいて少し床を潤し、静かに掃き出した後、湿ったおがくず、茶がら、もみがら等を床の上にまきちらしてこれを掃き出すか、又は湿布でふきとる。…」【黒板、黒板ふきは常に清潔を保ち、黒板をぬぐい、又はその掃除をする際には、チョーク粉が飛散しないよう注意し、又黒板ふきの粉は必ず室外で払う」など12項目にわたり、清掃手順を規定している（訓令本文は国立教育政策研究所のWEBサイト掲載から抜粋して引用した）。

※3 杉田洋「エジプトでのTOKKATSUの現状と可能性」日本特別活動学会紀要26巻、2018年、3頁には、教室の清掃は当初保護者からの抵抗があったが、実践を重ねるうちに好意的に捉えられていったようになったことが記述されている。

16歳から
の
大学論

第45回

ETV特集「ねちねちと、問う」の
舞台裏とその意義京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授
宮野 公樹先生

Profile

1973年石川県生まれ。専門は、学問論、大学論。京大総長学事補佐、文部科学省学術調査官の業務経験も。近著「問いの立て方」(ちくま新書)。2025年5月、NHKによる7ヶ月間の密着取材が番組に(ETV特集「ねちねちと、問うーある学者の果てなき対話ー」)。

実は、去年の9月から約7ヶ月、NHKの密着取材を受けてまして、この度、EテレのETV特集「ねちねちと、問うーある学者の果てなき対話ー」(初回放送:2025年5月17日)として放送されました。

この番組は、「学問とは何か」「本当に大切にしたいものは何か」を問い直すもので、成果主義や効率性に傾きがちな現代社会において、企業人や研究者に本質的な問いを投げかけ、思考停止を避け「自分のものさし」を取り戻すことの重要性を伝えたものです。ナレーションは又吉直樹さんが担当。京都大学ELP(エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラム)での私の講義、受講生との対話、さらには「全国キャラバン3QUESTIONS」での議論を通じて、「ねちねちと問い続ける」姿勢を浮き彫りにしました。放送後、視聴者から「深い問いが心に響いた」「自分の価値観を見直すきっかけになった」などの声をいただき、大変励みになりました。以下、本誌読者の皆様に向けて、番組制作の裏側を率直にお話しますね。

今回の撮影を通じて得た学びは非常

に多く、本当に貴重な経験でした。撮影は合計で150時間に及び、膨大な素材から60分の番組を紡ぎ出すプロセスは、想像を絶するものだと思います(編集は、ディレクターと編集者がやるので私ではないですが一笑)。「密着」と聞くと、24時間カメラが回っているイメージを持つ方もいるかもしれませんが、実際はそうではありません。私のスケジュールをすべてディレクターが把握し、「この場面とここを撮影します」と、選ばれたイベントや場面に撮影クルーが入る形です。撮影チームは、ディレクター、カメラマン、音声担当の3名で構成。撮影の前半は、番組の方向性はまだ定まっておらず、日常の講義、対話、移動中の何気ない瞬間まで、ありとあらゆる場面を収録します。次第に「このテーマで進めよう」という指針が固まり始めると、その後は意図を持って撮影するシーンを選ぶという流れになります。しかし、150時間もの素材を60分に凝縮するため、使われないシーンはどうしても多くなります。特に、Voicyパーソナリティはるさんとの対談や、その後の交流会がカットされ

たのは残念でした。育児に関する話題など、大切なテーマになる?と思っていたのですが、いろいろな問題で使用できなかったようです。とても残念ですがこればかりは仕方ありません。

この番組制作を通じて強く感じたのは、ETV特集のアプローチのスタイルは『情熱大陸』や『プロフェッショナル仕事の流儀』とは大きく異なるということです。『情熱大陸』などは、まず番組の「枠」があり、そこに合う人物を探します。私の周囲にも「情熱大陸に出演した」という方は多いですが、番組側が常に被写体を探しているからこそ、声がかかりやすいのでしょう。

一方、今回の番組づくりは「問い」から始まります。ディレクターの「この人物(宮野)を通じて、こんなテーマを伝えたい!」という明確な意図が先にあり、それを実現するために全くゼロから丁寧に作り上げるのです。そのため、番組の作り込みが非常に深いのだと感じました。たとえばインタビューの時間。10時間を優に超えていたと思いますが、ディレクターは真剣に考え抜いた鋭い問いを

投げかけてきます。「宮野さんも、当時は効率や成果を追求しすぎていたってことですか?」「今、振り返ってどうですか?」など、核心をつく質問に、私も全力で応える。時には議論が白熱し、深い対話が何時間も生まれました。しかし、その長時間の対話から番組で使われるのはわずか数分!まるで氷山の一角だけを番組で見せるような、なんとも贅沢な感覚を持ちました(笑)。

放送後、SNSでは「宮野さんの問いが心に刺さった」「対話に引き込まれた」との声が多く寄せられ、大きな励みになりました。撮影の裏話はまだまだたくさんありますが、今回はここまで。番組終了後、多くの学びはVoicyにて放送しておりますので、よければぜひ【Voicyで検索し、宮野公樹をフォローください。また、番組NHKオンデマンドを契約しておられる方はいつでも見れます。それと、再放送があるかもしれないという情報もあります】。

剛腕、逝く



追悼、松本紘先生

元京都大学総長、
理化学研究所名誉理事長、
国際高等研究所所長

剛腕、と表現したら、間違いなく叱責を買っただろう。いや総長としての手腕ではなく、腕相撲の強さだと釈明したら大いに納得してもらえると思う。20代の学生にも負けないその強さを体験した人は少なくないはずだ。

時流におもねることを嫌う京都大学にあって、至難とも思える教養教育改革に道筋を付けた他、若手研究者育成のための「白眉プロジェクト」、日本の大学院改革を先導する「総合生存学環(思修館)」、アカデミアのタコつぼ化に一石を投じるための「学際融合センター」などを設置。教育・研究改革を精力的に推進、ガバナンス改革も断行された。入試改革、首都圏での京大の知名度再浮上にも力を

入れられた。また副学長時代、CiRA(iPS細胞研究所)の設置を強力にバックアップされたことは良く知られる。

批判の声も聞かれなかったわけではないが、剛腕の2文字は耳にしたことがない。伝統の《対話》や《自由の学風》を尊重し、学生や若手研究者とはフランクに接する。加えて学生の送り手である高校教員への敬意溢れる接し方や、誰にでも幼少期の苦勞を懐かしそうに明かされる人懐こさも、それに一役かっているかもしれない。

人類の来し方行く末、その生存圏の未来、そして日本文化への鋭い洞察も多々お聞きした。中でもアカデミアの本質を射抜いた「学問とは真実を巡る人間関係である。」の言葉は、多くの人の耳に残る。

「80歳まで現役」の公約通り、総長退任後は上京し理研での激務もこなされた。

一昨年春、郷里近くへ戻られ、静かな老後と思案の日々に思いを馳せられていたが、その実現は次世への課題となった。6月15日没、行年82歳。

【右のQRコードからは、これまでの談話、対話をお読みいただけます】



千葉県立千葉高等学校・中学校の全校生徒、保護者など約1500人を前に白熱の講演。終了後、会場ロビーで高校生たちに囲まれて(2011年7月15日)。



首都圏の公私立進学校の校長先生方と。恒例になった対話と意見交換会(第5回)の後で(2012年9月13日@品川)。



自ら企画した「京大高校生フォーラム IN TOKYO」(東京都教育委員会と共催)の第3回では、「100年後の未来」について高校生に考えてもらうとともに、講演も行った(2013年11月1日)。

中央大学 2027年4月にスポーツ情報学部(仮称)・情報農学部(仮称)を設置構想中 設置学部は12学部へ



中央大学は、2027年4月、多摩キャンパス(東京都八王子市)に「スポーツ情報学部(仮称)」および「情報農学部(仮称)」を開設する計画を発表した。これが実現すれば、同大学の学部数は12学部となる予定。

多摩キャンパスには現在、経済学部、商学部、文学部、総合政策学部、国際経営学部などが設置されている。新たに

理系の視座を取り入れた2学部を開設することで、学問領域のさらなる拡充と文理融合型教育の展開を目指す。

スポーツ情報学部(仮称)はスポーツ情報学科(入学定員300名程度)を設置し、データサイエンスによるスポーツ界のDX推進、スポーツの成長産業化、多様な主体によるスポーツ機会の創出を目指す。コースは「データサイエンスコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツウエルネスコース」の3つで、アプリ開発やAR・VR活用、ビジネスや地域経済の活性化、多様なアクセスの促進などを体系的に学ぶ。

情報農学部(仮称)は情報農学科(入学定員300名程度)を設置し、農・食・環境を取り巻く法的・国際的課題に対応できる素養を養う。2年次には農業現場と連携した早期体験学習を実施し、キャリア教育科目を必修化することで、理系分野、特に女性人材の早期キャリア形成を支援する。

これにより、法学部、経済学部、商学部、文学部、総合政策学部、国際経営学部、国際情報学部、2026年4月改組予定(届出中)の基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部と合わせて、中央大学の学部は12学部体制となる。

京都橘大学 国際英語学部と経済学部を2専攻制に再編へ 2026年4月から

京都橘大学は2026年度から国際英語学部国際英語学科に「グローバルスタディーズ専攻」と「国際共生専攻」、経済学部経済学科に「経済学専攻」と「現代社会専攻」を開設する方針を固めた。

国際英語学部のグローバルスタディーズ専攻は入学定員40人。2年次に1年間の海外留学を経験した後、帰国後は英語で専門科目を受講するカリキュラム構成により、高度な英語力と幅広い教養を併せ持った真のグローバルリーダーを育成する。国際共生専攻は入学定員80人。世界各国から集まる留学生とともに国際都市・京都をフィールドに学び、高度な語学力と教養、多様な価値観を身につけることで国際社会で活躍する人材を育てる。

経済学部の経済学専攻は入学定員200人。ビジネスや政策に生かすデータリブ思考を学ぶとともに、他学部混成のプロジェクト型教育を通じて、多角的な視点から現代経済社会にアプローチし、社会の課題を解決する人材を養成する。現代社会専攻は入学定員40人。経済学だけでなく社会学などの分野に越境し、多様なテーマに沿ったフィールドワークを通じて現代社会に深くアプローチすることで、新たな暮らしのあり方や社会のしほみを創造できる人材を育成する。

江戸川大学 こどもコミュニケーション学科の学生が小学生の宿泊型スポーツ体験イベントでボランティア



2025年5月3日・4日、江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 こどもコミュニケーション学科の学生4名が、静岡県富士市のエスプラットフジスパークで開催された「exPANDA クロススポーツキッズイベント」に、ボランティアとして参加した。

「exPANDA」は小学2年生から6年生(7歳～11歳)の「ゴールデンエイジ」と呼ばれる時期の子どもを対象としたスポーツ体験イベントで、テコンドー・フェンシング・スケートボード・縄跳びなど、複数のスポーツに触れることで、自立と自律を促し、主体性・積極性・協調性を養うことを目的としている。こどもコミュニケーション学科の守屋志保教授がアドバイザーを務めており、同学科の学生が2022年度から継続的に参加している。

こどもコミュニケーション学科4年の瀧澤いち花さんは、今回で3回目の参加。「子どもたちや保護者の方が私のことを覚えていてくださり、教育実習とはまた異なる、温かなつながりを感じることができました」と話す。また、2日目に瀧澤さんのチーム内で子どもたちが喧嘩をしたときの対応が難しかったようで、「未就学児のけんかを仲裁した経験はあったのですが、同じようにしても小学生はすぐに仲直りでせず、気持ちの整理に時間がかかる様子を見て、成長段階による違いを感じました。また、夜なかなか寝につけない子どもが多く、自分自身の就寝時間も遅くなってしまった点は、体力的にやや大変でした」と、1泊2日の宿泊プログラムならではの学びも得ることができ、子ども理解を深める貴重な機会となったようだ。

千葉商科大学がキャンパス内で栽培したぶどうを醸造 オリジナルワイン第3弾を販売開始

千葉商科大学(CUC)の「CUC100(ワンハンドレッド)ワイン・プロジェクト」は、大学キャンパス内で栽培したぶどうを使った第3弾となるオリジナルワイン「CRISTALLO DI RUBINO(クリスタロ ディルビーノ)」を製造。2025年3月23日より販売を開始した。



「CUC100ワイン・プロジェクト」では、2019年1月、プロジェクトメンバーである在学生が創立100周年に向けて千葉縣市川市産ぶどう100%の大学オリジナルワインの醸造に挑戦するため、設備資金(プロジェクトの活動や運営費)は、学生がクラウドファンディングで支援を募りぶどう栽培をスタートした。2022年9月に第1弾「Vignobles sur le campus(ヴァイニョブル・スュール・ル・キャンパス)」, 2023年9月に第2弾「嗣～TSUGU～」を製造しており、今回が第3弾となる。

学生たちは2024年9月に80kgのぶどうを収穫し、山梨県甲州市の白百合醸造株式会社協力のもと醸造を行った。商品名「CRISTALLO DI RUBINO」は、イタリア語で直訳すると「ルビーの結晶」。ぶどう一粒一粒を宝石のルビーに例え、歴代メンバーの努力が結晶のように一つになって完成したワインであるという意味を込めた。ラベルは、ワインを注ぐ様子を波の形で表現。ぶどうのイラストに輝きを散りばめることで、ルビーのような美しいぶどうを際立たせるデザインに仕上げた。1本720mlで5,800円(税込)。アルコール分11.5%。フレッシュですっきりとした辛口が特徴のワインとなっている。

また、千葉商科大学所有の大木戸ソーラー発電所のパネル下で収穫したさつまいもを使った「大木戸さつまいもジェラート」の販売も開始した。学生と市川市内の親子が収穫したさつまいもを使用したジェラートでさつまいもの風味を生かした自然の甘さが特徴。1個120mlで450円(税込)。

「CUC100ワイン・プロジェクト」では、旧ピッチング練習場を土壌改良して耕した畑に野菜も栽培しており、ソーラーシェアリング設備を導入し、発電した電力は学内で消費している。2022年3月からは、大学周辺の緑化および生態系の維持に貢献するため、養蜂事業「国府台bee Garden」を開始。農業の未来やエネルギー資源について考えるきっかけや地域と交流する場を創り、地域活性化に貢献することを目的に活動している。

藤田医科大学 6年一貫プログラム「医工共創学科」 2027年4月設置構想

2027年4月、藤田医科大学(愛知県豊明市)は、医療科学部に医工共創学科、大学院に医工学社会共創研究科を同時に新設する(設置構想中)。入学定員は30名。学部から大学院修士課程までの6年一貫プログラムを通じて医学と工学が交わる新たな医療の価値を創造し、産業界・経済界と一体となって、人々の社会参画を支える医療技術創造をリードできる人材を育成する。

藤田医科大学によると、この6年一貫の研究・人材育成プログラムでは、課題解決型学習PBL(Project-Based Learning)や企業持ち込み型実務型教員事例研究講義によって、社会とともに未来医療を共創する人材を育成する。また、世界視野で医療展開できる人材を育成するため、MOUを締結している大学間での研究連携、企業における海外インターンシップ制度、産学連携に基づく実務型教員による実践的な社会実装教育を充実させる。日本のものづくりの集積地として知られる中部圏において、社会共創医工学の実践研究の場である藤田医科大学研究センター群とともに、社会の要請に応える「世界最先端の工学技術を医療分野に展開できる人材」を育成する。

医工連携分野の学科新設では、2025年4月に開設された神戸大学医学部 医療創成工学科がある。2023年4月に新設された大学院医学研究科の医療創成工学専攻との一貫教育で、医療機器開発を主導する創造的開発人材を育成する。1期目となる2025年度入試

では一般選抜の前期日程のみ25名で募集したところ、志願者113名、倍率4.5倍の人気となっている。

理工系分野では6年一貫プログラムが多くの大学で行われており、実際に同じ大学の大学院に進学する学生も多い。

学校基本調査によると、学士課程修了者の2024年4月における進学率（※）は、理学系で46.1%、工学系で39.8%。国立大学の理学系63.8%、工学系69.3%、公立大学の理学系62.5%、工学系41.3%、私立大学の理学系32.4%、工学系23.8%となっている。理工系における大学院進学率は上昇傾向が見られている。

※学士課程修了者のうち進学者（大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者）の割合。進学者は、進学しかつ就職した者を含んでいる。進学者の内訳としては大学院研究科への進学者がほとんどになるため、大学院進学率の参考数値となっている。



2027年度より「武庫川大学」へ 13学部の全国最大規模の女子大 武庫川女子大学が共学化と校名変更を予定

2025年6月17日、学校法人武庫川学院は2027年度から武庫川女子大学を共学化する方針を固めた。大学名は同年度より「武庫川大学」とする予定。附属中学校・高等学校については女子校を継続する。詳細は7月28日の理事会で決定後、公表される見込み。

武庫川学院は1939年に教育者の公江喜市郎氏によって創設され、女性に高度な教育の機会を提供することを目的としてきた。創設から10年後に開学した武庫川女子大学は時代の変化に応じて女性の活躍の場を広げ、2025年4月には環境共生学部を開設し、13学部21学科、大学院8研究科14専攻を擁し、3キャンパスとアメリカ分校に1万人の学生が学ぶ全国最大規模の女子総合大学へと発展。卒業生は20万人にのぼる。

管理栄養士、薬剤師、看護師、社会福祉士、公認心理師、一級建築士などの国家試験において高い合格率を誇り、教員養成にも定評がある。産官学連携や地域連携など実践的な学びも活発に行われている。さらに学生生活においては世界レベルで活躍するクラブや選手が多数存在する。共学化に踏み切る背景には、こうした優れた教育環境や学術研究を女性に限定せず、性別や年齢を問わず広く開くべきとの考えがある。

また、日本のジェンダーギャップ指数は2025年時点で世界118位と低く、男女格差の課題は依然として残っているなかで、創立以来推進してきたジェンダーや多様性に関する理解促進、キャリア形成の教育を、男性を含めたすべての人に開く時が来たといえる。そのため今回の変更は「共学」ではなく「皆学（かいがく）」と呼び、幅広い学びの領域を持つ総合大学として責務を果たすとしている。

なお、2026年度募集における女子大学の学部数（7学部以上）は武庫川女子大学（兵庫県・13学部）、東京家政大学（東京都・8学部（学環））、安田女子大学（広島県・8学部）、共立女子大学（東京都・7学部）、昭和女子大学（東京都・7学部）、日本女子大学（東京都・7学部）、金城学院大学（愛知県・7学部）、椋山女学園大学（愛知県・7学部）、京都女子大学（京都府・7学部）。

< 2025年4月より共学化した旧女子大学 >

東京家政学院大学（東京都） → 東京家政学院大学

※ 2025年4月より町田キャンパス（生活共創学部）を共学化、2026年4月より千代田三番町キャンパスの2学部（現代生活学部・人間栄養学部）も共学化

清泉女学院大学（長野県） → 清泉大学

名古屋女子大学（愛知県） → 名古屋葵大学

神戸松蔭女子学院大学（兵庫県） → 神戸松蔭大学

園田学園女子大学（兵庫県） → 園田学園大学

※ 2025年4月より、こども学部と経営学部を共学化、2026年4月より、人間健康学部食マネジメント学科を共学化、2028年4月より人間健康学部総合健康学科・人間看護学科を共学化予定

< 2026年4月より共学化する女子大学 >

女子栄養大学（埼玉県） → 日本栄養大学

岡崎女子大学（愛知県） → 岡崎大学

京都光華女子大学（京都府） → 京都光華大学

国際基督教大学 2026年度から新入生向け奨学金を拡充 条件を満たす応募者全員に4年間で総額約238万円を給付

国際基督教大学は2026年度から新入生向けICUトーチリレーHigh Endeavor奨学金の一般選抜採用枠を廃止し、採用条件を満たした応募者全員に給付することを決めた。特色ある少人数教育を進めるため、学費を他大学より少し高めに設定していることから、経済的な理由で進学をあきらめることがないようにするのを目的としている。

この奨学金は入学から卒業までの4年間、各学年3学期のうち、第1学期の授業料と施設費、新入生の入学金の3分の1を免除するもので、2026年度の給付額は80万7,000円。4年間にすると、総額約237万8,000円になる。

これまでは全選抜で毎年24人の採用枠を設定してきたが、2026年度から一般選抜の採用枠を廃止し、一般選抜に合格して採用条件を満たした全員に給付する。

応募資格は生計維持者の給与収入が税込1,000万円未満か、自営業など給与収入以外の世帯で年間所得が565万円未満の受験生。応募資格を満たして一般選抜に出願、合格し、入学すれば、自動的に給付対象になる。一般選抜以外には16人の採用枠を設定する。

国際基督教大学は1949年、日本と北米のキリスト教界の指導者たちによって創立され、その後日本全国からの寄付により1953年、日本で最初の4年制教養学部大学として開学した成り立ちを持つ。これに基づき多様な学生にその教育を還元するため、奨学費支出を学納金の25%にするという目標を掲げて2024年度、奨学金専用のファンドとしてPay Forward基金を設けた。新入生向けICUトーチリレー High Endeavor奨学金は、その原資をもとにさらなる拡充に踏み切る。

明治大学 アメリカの大学での学びの継続が困難な留学生を対象に学費全額免除制度など支援

明治大学は、米国政府による急激な政策変更によりアメリカの大学での学びの継続が困難となった学生や、すでにアメリカの大学に合格しているものの渡米できない人を対象に、2025年度秋学期の受入れに向け、経済的支援を実施する。

明治大学によると、2025年度秋学期に科目等履修生として学部・大学院研究科・専門職大学院研究科に入学する場合の学費を全額免除する。また、同じく2025年度秋学期に研究生として大学院研究科・専門職大学院研究科に入学する場合、学費を全額免除する。ただし米国大学に合格したものの渡米できない人の学部科目等履修生としての受入れについては、同大学の制度上、日本国籍を有することが条件となる。

上野正雄明治大学長は、「明治大学は、アメリカにおける留学生受入れの制限により、学びの継続が危ぶまれている皆さまの現状を、深く憂慮しています。私たちは、現在困難な状況に直面する皆さまに対して、新たな学びの場を提供したいと考えています。明治大学が、皆さまのこれまで積み重ねてこられた努力を続け、さらに発展させる場となることを心より願っています。まったく異なる環境に身を置くことになろうかとは思いますが、皆さま一人ひとりが自分らしく学び、成長できるよう支援してまいります」とコメントした。

なお、明治大学では支援のさらなる拡充も検討しており、決定した際は大学ホームページに掲載する。

日本の大学・教育関連専門のニュースサイト

大学ジャーナル
UNIVERSITY JOURNAL
ONLINE

その他の詳しい大学関連ニュースは

大学ジャーナルオンライン

SEARCH



@univjournal



大学ジャーナルオンライン

トピックスⅡ 超少子社会へ向けて大学連携が加速

連携協定要旨

近畿大学 × iU 情報経営イノベーション専門職大学

私立大学の統廃合時代が幕を開けるか？

伝統の総合大学と先進の大学が歴史的な戦略的連携協定を締結！

調印は、7月1日に行われた。協定要旨は右記の通りだが、これに先立って、両大学の連携にける意気込み、狙い、展望などについて、近畿大学の世耕石弘経営戦略本部長と、iU 情報経営イノベーション専門職大学の中村伊知哉学長に、それぞれの抱負と、目指すところをお聞きした。

情報経営イノベーション専門職大学と近畿大学が戦略的連携協定を締結

～起業支援・eスポーツ広域連携・広報活動を通じて、私学の未来を共創～

学校法人電子学園 情報経営イノベーション専門職大学（東京都墨田区、理事長 多 忠貴、以下iU）と学校法人近畿大学（大阪府東大阪市、理事長 世耕 弘成）は、大学経営における戦略の共有によるパートナーシップの構築を目的とした「戦略的連携協定」を令和7年（2025年）7月1日に締結しました。

1. 目的

- 起業支援に係る協業体制
- eスポーツにおける広域連携
- 共同広報活動

2. 具体的な展開

- 起業支援に係る協業体制
- 共同で起業支援プログラムの開発と実施に注力し、学生・教職員等の起業家育成を支援します。
- それぞれが所有する人的資本の互換性確保・補完に向け、協力し合います。
- 両大学の協力関係にある企業群に対し、双方の学生からのアプローチを可能とするよう努めます。



iU 情報経営イノベーション専門職大学 学長
中村 伊知哉 さん

多様性の交差点から
予測不能な未来に
強い人材を育成したい

このたび、近畿大学とiUが戦略的連携協定を締結したことは、今後の大学教育の在り方に対して大きな一石を投じるものと確信しています。超少子化、技術革新の加速化、そして地政学的リスクが増大する現在、大学が単独で理想的な教育を実現することはますます困難になっています。そのような中で、東西の特色ある大学が自らの強みを生かしつつ連携し、新たな価値を創出しようとする今回の取り組みは、まさにこれからの「大学間共創モデル」の先駆けといえるでしょう。

とりわけ、近畿大学という一世紀の歴史を持つ日本屈指の総合大学と、iUという起業家精神を中核に据えた新しいベンチャー大学との連携は、分野の垣根や規模の違いを越えてイノベーションを生み出そうとする挑戦です。こうした多様性の交差点でこそ、予測不能な未来に強い人材が育まれると考えています。従来の「教育の標準化」ではなく、「個性と共創」が問われる時代にあって、両校の連携は新たな大学像を提示するものです。

あらためてiUとは

iUは2020年の開学以来、ICT×ビジネス×グローバルを軸にイノベーターの育成に取り組んできました。全員起業への挑戦や、さまざまな産学プロジェクトを通じ、フロンティア・クリエイティブ・ソーシャルの3領域でイノベーションを起こすことを目指しています。

産学プロジェクトを通じて学ぶスタイルから生まれるものはAIからメタバース

2大学で大学間共創モデルを先導



ちょっと先の面白い未来2024

起業率は2年連続1位

順位	大学名	起業率 (%)	2024年度起業 (社)	学生数
1	iU	5.59%	85	698
2	東京科学大学	1.39%	187	13,358
3	京都大学	1.16%	422	12,837
4	神戸大学	0.51%	113	11,460
5	北海道大学	0.39%	147	11,384
6	デジタルハリウッド大学	0.37%	117	1,341
7	会津大学	0.35%	44	1,134
8	東京大学	0.34%	468	14,074
9	大阪大学	0.30%	298	15,111
10	慶應義塾大学	0.30%	377	28,789

(出典)経済産業省「令和6年度産業技術調査(大学発ベンチャー実態等調査)報告書」より



eスポーツチーム「INSOMNIA」

まで、宇宙から量子まで、医療からアートまで、セキュリティからモビリティまで。そしてウェルビーイングにニューロダイバーシティまでと、これまでの大学の学びでは手の届かなかったものばかりです*。

また本学では、産業界のトップリーダーが教員の多数を占めますが、その指導の下、数十のプロジェクトが走っています。そして3年次には全員が4ヶ月の企業実習＝インターンが必修として課せられます。

最大の特徴は全員起業、学生全員が4年間に1度は起業に挑戦する仕組みです。全員が起業に成功すれば、就職率はゼロですから、「目標就職率」はゼロです。その結果起業率（起業数÷学生数）は大差をつけての日本一【右上表】。2年連続です。年間の起業数では8位。上位は国立大学と慶應義塾大学であり、小規模な新興大学として気を吐いています。

しかし、起業を目的としているわけではありません。目標はイノベーションであり、起業はそれに挑戦する学習、経験という位置づけです。起業はたいていは失敗します。iUは、その失敗から得られる学びをこそ重視します。だから「失敗大学」なのです。ICT+ビジネス+グローバル・コミュニケーションという「知識」を身につけるとともに、プロジェクト+インターン+起業の「実践」で力をつける、これがイノベーターの基礎を作るスタイルです。

これまでiUは産業界との結びつきを重

視し、約800社の連携企業、1000人の客員教員からなるコミュニティを築いてきました。今後は第2ステージとして、内外の教育研究機関との連携も深めたいと考えています。今回の近畿大学との連携は戦略的な意味を持ちます。単なる共同研究や学生交流にとどまらず、「東西の実践型教育機関が手を組み、日本の高等教育のイノベーションをリードする」ことを目指しています。

※これらの具現化、拡大を目指すイベントが「ちょもろー」。「ちょっと先のおもしろい未来の略で、先進的なテクノロジーに彩られた少し未来の社会や生活、新しい取り組みのポップカルチャーが体験できる大人も子どもも楽しめるイベント(写真左上)

起業家育成とeスポーツの2軸でスタート

具体的な連携テーマの第一弾として、「起業家育成」と「eスポーツ」の2軸に着目しています。

まず「起業家育成」に関しては、iUがこれまで培ってきた起業支援プログラムに、近畿大学のネットワークやOB経営者層の知見を掛け合わせることで、全国規模でのイノベーション・エコシステムの構築を目指します。学内ピッチコンテストの共催や、外部VCや企業との接点を増やす場の創出を進めていく予定です。

eスポーツ分野においては、教育・研究・地域連携の各側面で多層的な連携を計画しています。まず学生間の活動連携として、近畿大学とiUのeスポーツサークルによる交流イベントの企画を進めており、単なる競技の枠を超えた「学び合い」「協働型成長」の場を創出していきます。iU

のeスポーツチーム「INSOMNIA」が7月に大阪で実施予定のファンミーティングにおいては、近畿大学が告知や集客面でサポートを行う予定であり、東西の学生コミュニティが互いの活動を補完し合う体制が動き始めています。

中長期的には「ダブルディグリー制度の導入」「グローバル展開での共同キャンパス構想」「地域課題解決型プロジェクトの展開」など、連携の幅を拡張していければと期待しています。iUの機動力と、近畿大学の規模・総合力が融合することで、日本の高等教育の未来に新しい解を提示していきたいと考えています。

次世代型キャンパスの構築も視野に

iUは今後、京都や名古屋のインキュベーション拠点とも連携して起業支援ネットワークを広げるとともに、AI・データサイエンス・クリエイティブ産業といった領域へも展開を進める計画です。欧米MBAの誘致やアジアの提携校との交換プログラムの拡充、XRやAIを活用した次世代型キャンパスの構築にも着手する予定です。

今回の連携は、そうした未来を共に創っていきける重要なステップであり、これまでの大学教育にない“可能性”を広げる挑戦であると捉えています。近畿大学とiUの連携が、多くの学生・高校生・教育関係者にとって希望ある道標となることを願っています。

ベンチャースピリットに満ちた大学とのコラボで改革を加速、革新に挑み続ける姿勢をアピールしたい



近畿大学 経営戦略本部長
世耕 石弘 さん

近畿大学は今年で、創立100周年という大きな節目を迎えます。「100年大学」といっても、大規模私立大学の中ではまだまだ若い存在であり、新しいものにチャレンジする役割を担っていると認識しています。しかし一方で、本来の目的が忘れられてしまい形骸化してきた業務なども目につくようになってきました。そんな中で、専門職大学という全く新しいカテゴリーで設立され、既存の大学の価値観にはとらわれないiUさんとの連携は、改めて現状を見直すいいきっかけにもなると判断しました。

iUさんは、2023年に学生の起業率で日本一、その増加率では2年連続日本一※1となるなど、大学界のベンチャーとも言うべき存在であり、その取組、実績からは学ぶべきところがたくさんあると考えています。また歴史や規模、スタイルも全く違う大学との交流自体にも大きな意味があります。例えば持っているネットワーク。本学は病院、研究所、中学・高校といった附属施設・学校やOB組織に加えて、コンソーシアムや大学間連携事業に参画することで、関西でもトップクラスの学外ネットワークを持っていますが、iUさんは、歴史的な大学が持てないような新しいネットワークを多数お持ちです。連携が深まり、人事交流なども進めば、本学の改革のヒントがいくつも見つかるのではないかと期待しています。iUさんとの連携は、本学も改革に挑み続ける大学であるとのアピールにつながるのではないのでしょうか。

※1 経済産業省による大学発ベンチャー実態等調査による。2024年度（10月末時点での、2023年度との比較による）「大学発ベンチャーの伸長傾向」（2025年6月6日の同速報）では、iUは4位、近畿大学は9位に入っている。

東西間の距離は、ICT教育で埋める

昨今、東西の大学間連携は珍しいことではありません。しかし多くは、同じような歴史を持ち、規模的にも同程度の大学同士によるものが多いのも確かです。その点、このたびの連携は、専門職大学と総合大学という極めて珍しい組み合わせであり、超少子社会へ向けての私学共生の一つの在り方として注目されると思います。

学生同士の交流という観点からは、東西を行き来するにはコスト面の負担が大きいというハンデは確かにあります。しかし本学、iUさんともに教育ICTでは先進



esports Arena

的な取組をしていますから、かなりの部分はカバーできるのではないかと考えています。

日本のeスポーツと、eスポーツ教育をともに盛り上げたい

連携の目的のもう一方の柱がeスポーツに関するものです。eスポーツについては両大学ともに、その教育面の価値に注目し、それぞれ独自に活用を図ってきました。

本学は日本国内でも屈指の規模を誇る esports Arena【写真上】を有し、利用する学生も多く、またiUさんは、起業やイノベーション創出といった経済活動も視野に入れたeスポーツ教育に力を入れておられます。eスポーツを通じて、両校の学生がコミュニティを広げ、eスポーツ教育の新たな展開につなげていきたいと考えています。

近大が目指す起業家育成教育とは。キャンパスの立地を活かし、KINCUBAで独自の起業家育成を

本学は、「創立100周年に向けて大学発ベンチャーを100社輩出」の目標をすでに達成し、現在は西日本の私立総合大学で一番多くの大学発ベンチャーを創出することを目指し、「関西で起業といえば近大」というブランドを作り上げていきたいと考えています。

ただ、本学の学部段階での起業家育成教育では、多くの大学と異なり、正課で講義を開講しカリキュラムを整備するのではなく、部活やサークル活動のように、課外での展開に力を入れています。というのも、大学では学生同士のつながりが強い影響力を持つため、その力を活かしたいと考えたからです。身近な同級生、あるいは先輩・後輩が起業していると聞けば、学生の意識は一気に変わり、意欲に火が付きやすい。そこで、起業家精神を持っている、あるいは少しでも、“たとえ1ミリでも”、起業に興味をもつ学生のために、互いに刺激しあうための場を提供しようと、2022年10月に24時間365日開放のインキュベーション施設「KINCUBA Basecamp」を開設しました【写真右上】。

そもそも本学のメインキャンパスが立地する東大阪市は、モノづくりのまち、中小企業の集積する町として全国的に知られています。ここに集う企業の多く



おおさかメディカルキャンパス



「KINCUBA」プログラム



インキュベーション施設「KINCUBA Basecamp」

は、事業計画をきっちりと立て、綿密な構想の基に創業されてきたわけではなく、むしろ「夢をもって行動したい」というマインドをモチベーションの根っこにしてきたのではないか、このような地域の伝統や風土こそ、学生が起業を学ぶには最適な環境ではないかと私は考えています。

また本学の強みは、キャンパスやその周辺を訪れていただくとわかりますが、「多様な人々の集まり」です。経営学部、理工学部、薬学部、国際学部などといった異分野の教員・学生、あるいは周辺の商店街などで学生を温かく見つめる大人たちが集い、ある種カオスのような環境を生みだしています。学生たちは、その中に飛び込み、リアルな接触を通じて、自分たちのコミュニティを形づくっていくわけですが、そこから、互いの知を持ち寄って日々新たな試みに挑むまでの距離や時間は、極めて短いと考えています。

通信制・共通教育のオンデマンド化をさらに進めたい

私が部長を務める通信教育部は、創設者世耕弘一が、経済的な理由で27歳まで大学に行けなかった経験から、「学びたい者に学ばせたい」「すべての人が大学教育を受けられるようにしたい」との理念に基づき昭和32年に開設されました。その後、安価な授業料と原則無試験での入学をうたって発展してきましたが、コロナ禍には、それまでに体制を整えてきたオンライン教育が、全学的な展開の支えとなりました。

このような経緯もあり、本学では対面授業が再開されてからも、通信教育および共通教育のICT化を推進してきました。そしてその結果、今では語学科目を除く共通教養科目（一般教育科目）は、基本的には全てオンデマンドでも受講できるようになっています。それもあって、今春、開設された建築学部の通信教育課程の滑り出しも極めて順調です。

オンデマンド化の良さは、「何度でも視聴でき、理解度に応じて学修ペースを調整できる」など、個別最適な学びが可能です。一般的なには、早送り視聴や成績低下の懸念を指摘する声もないわけではありませんが、本学では現在まで、こう

した弊害は確認されていません。

ちなみに情報学部では、語学教育においても、専用アプリを開発しオンデマンド化を拡充しつつあります。これが整備されれば、英語・ドイツ語・フランス語・中国語にとどまらず、海外の若者の多様な学習ニーズに応えることができるようになりますから、日本の大学がもっと「世界を相手に」展開することも可能になるのではないのでしょうか。

《脱偏差値》、グローバルスタンダードに目を向けてほしい

日本の大学がさらなる飛躍を遂げるには、関西で言えば、いわゆる「関関同立」「産近甲龍」といった偏差値で大学をランク付けするような価値観から自由になることが不可欠だと思っています。偏差値は入試の合格可能性の単なる指標にすぎず、入学者の潜在能力や、入学後に学生がどれだけ成長したかを評価するものではありません。ましてや大学自体を評価するものではないはずです。

大学のグローバル化が喫緊の課題であるなら、高校生には国内でしか通用しない偏差値ではなく、世界で通用する、まさにグローバルスタンダードを基準に大学を選んでほしいと思います。

さいわい本学は、THEなどによる世界大学ランキングにおいて、関西の私立総合大学中では常に最上位に位置付けられています。もちろん順位がそれほど高いわけではありませんが、すでに《京大・阪大・神大・近大》という評価は定着しつつあります。中でも医学部は2つの附属病院を有し、国立大学にも引けを取りません。今年、医学部・近畿大学病院が移転予定の新キャンパス「おおさかメディカルキャンパス」【写真上】には、最新の設備機器が備えられ、来春には看護学部※2も設置されますから、優秀な研究者が集まれば世界的な評価はさらに高まることでしょう。

高校生のみなさんがドメスティックな価値観から離れ、グローバルな価値観で大学を選択する時代が訪れた時こそ、日本の大学全体がさらに発展する時ではないか。本学はその時のために、国立大学にも伍していける大学を目指して改革を続けていきたいと考えています。

※2 仮称・設置認可申請中。設置計画は予定であり、変更になる可能性があります。

近畿大学の応援に忙しい学生(応援部リーダー部)
@Eキャンパスグラウンド(東大阪キャンパス)

今年の近大は 忙しい。

今年は創立100周年^{※1}。まず皮切りに大阪で開催されるあの万博に参画して、近大のサブラレッド魚^{※2}で世界の舌を唸らせる。さらには、いつでもどこでも学べる日本初、通信制の建築学部を開設。祝100周年!のイベントもあるし、医学部と近大病院は「おおさかメディカルキャンパス」^{※3}に、近大史上最大規模のお引越し。来年開設予定の看護学部(仮称)^{※3}の準備もせなあかんねんて。他にも盛りだくさんでパンパンらしい。100年に1度やからって、とばし過ぎやろ近大。マグロと同じで止まれへんのが近大の習性なんかな。100周年、全力で前だけ向いて進み続けるで!今年はマグロの目えも血走るわ。

^{※1} 近大が開発したクエタマ(クエ×タマカイ)など、学術的には交雑魚を指す。万博に出店する「養殖魚専門料理店 近畿大学水産研究所」で提供。

^{※2} 大阪府堺市の泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅前に誕生する新キャンパスの名称。 ^{※3} 現在設置構想中。令和8年(2026年)4月に設置予定ですが、計画は変更される可能性があります。

看護学部(仮称・設置認可申請中)[※]/法学部/経済学部/経営学部/理工学部/建築学部/薬学部/文芸学部/総合社会学部/国際学部/情報学部/農学部/医学部/生物理工学部/工学部/産業理工学部/短期大学部

[※]2026年4月設置予定、設置計画は予定であり、変更になる場合があります。

〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1 www.kindai.ac.jp

 **近畿大学**
KINDAI UNIVERSITY